

平成 29 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 高田福祉会	代表者	理事長 小菅貞一	法人・事業所の特徴	平成 20 年 6 月に併設するサテライト型特別養護老人ホーム笛吹の里とともに開設された、のんびりと穏やかな雰囲気施設の施設です。地域交流が広がり恒例となった夏の納涼祭には毎年たくさんの方から参加いただき、多世代間交流の場となっています。利用される方それぞれの「その人らしい暮らし」「～したい」が少しでも実現できるように、本人の思いを大切に、家族や地域の理解や協力を得ながら「訪問」「通い」「泊まり」を組み合わせた柔軟な介護サービスの提供に努めています。
事業所名	ケアホーム笛吹の里	管理者	瀬下 善人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	高田の郷地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0 人	0 人	4 人	1 人	1 人	1 人	人	5 人	人	12 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	①利用者情報の整理、共有、活用②家族や地域との関わり強化③業務改善と個別対応の強化の3点を重点課題として取組み、併せて特養笛吹の里と協働し、地域課題に取り組みながら、介護・福祉拠点としての役割を担える施設運営を目指す。	別紙、事業所評価を参照ください。	◆前回の改善計画に対してスタッフ全員で取り組んでいた。◆前回指摘した取組みは積極的になされていたが、本人と家族の意思疎通がうまくっていないとの記述があり、コミュニケーション不足があるのではないかと。◆初期支援では利用者、家族、職員に相当気苦労があると思われます。利用者の気持ちを早く理解していく。実行が一番。◆地域との関わりの中で、地域の困り事や心配な方の相談があり、これが実際の支援やサービス利用につながったケースがあった。具体的には利用登録者以外の配食、認知症高齢者の支援等であり、利用者やその家族からの意見を反映しより良い支援や環境整備に努めたとの記述があった。これらのことは前回の改善計画に対して皆さんが誠意を持って真摯に取り組まれたことの表れと思う。◆改善計画について、ほぼ具体的な計画になっていると思うが、直接介護する上で必要かどうか良くわからない項目については、次回達成できているかよくわからない。例えば、利用者の暮らし方を10個以上把握する事とか、利用者が地域の行事に楽しんで参加できるよう理解を呼び掛けていく等の事がどの程度まで必要なかと思う。◆3年ほどこの「サービス評価」を見させていただいた事での意見として、①全ての設問を同じ人が答えるのではなく、介護担当職員向けと管理者向けを分けての設問を作る方が良いと思った。②毎年同じ設問ではなく、例えば3年間で見直しをして、答える側の意見を良く聞いて設問を改善していく方が良いと思った。③利用者及び利用者家族がどう思っているかが最も大事な事と思う。アトラダムに一定の数の人の意見を聞き、前年より評価が上がっていればまず問題ないのではと思う。	①利用者の意向、価値観に基づいた支援の実施。 ②家族や地域と協働した支援の実施。 ③職員の「学び」を促し、介護職としての自覚を持って、質の向上を目指す。 ④互いに相手のことを思いやり、人との関わりを楽しむ。 上記を重点課題として取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用される方が快適に過ごせるよう設備の点検整備を引き続き実施します。 相談に来られた方の話を良く聞き少しでも肩の荷が下りるような働きかけができるように相談窓口としての機能の充実を図ります。	施設設備は定期的に点検、整備がされている。不調があれば関連業者に依頼し、適宜、点検整備を実施しているが、改善に時間を要することがあり、予防的な取り組みも必要と考えている。	◆実際に利用していますが居心地の良い環境だと思います。職員のみなさんがやさしく接してくれますので楽しく過ごしています。◆関連業者との連携は大切だと思います。◆事業所内は整理整頓されていると思う。スタッフの方の優しさが理解できます。◆冷暖房の不具合が時々見られる。野焼きの悪臭が入ってくる事がある。◆三郷保育園の子供たちが予定した行事でなくても遊びに来てくれたことがあった事、及び、地元町内の災害訓練で笛吹の里が一時的な避難所としての役割を担ってくれた事等、地域との交流が進み地域に開かれた施設であると思う。	施設を利用する人が快適に過ごせるよう設備点検を実施し環境整備に努め、居心地の良い雰囲気づくりに取り組む。

C. 事業所と地域のかかわり	介護が必要になっても施設入所以外の選択肢があること、笛吹の里のサービスや取り組みを引き続きアピールしていき、地域における介護・福祉の拠点施設として認知されるよう取り組んでいく。	近隣町内や利用者が多い地域での施設やサービス内容についての理解は深まっている。施設利用や地域の困りごと等の相談も増えているが、介護・福祉の相談窓口として機能しているとは言えない。施設が実施するイベントに小学校や保育園、町内の方から参加いただいたり、その逆もある。また、保育園児が散歩がてら施設に立ち寄っていただくこともあり、地域との交流が深まっている。	◆地域の子供たちが立ち寄ることがあることから、地域の方にも徐々に知られているのかな？とも思われます。◆いろいろなサービス、地域との話し合いに取り組んでいる。事業所と近隣地域の人々との交流ができています。◆この事業所があって安心できる、良いスタッフがそろっているからこの施設を利用したいと、意識を持ってもらえるよう働きかけてほしい。◆利用者や近隣及び関係者には理解されていると思う。しかし、小規模多機能型居宅介護自身のキャパが埋まっているのが常であり、このサービスを知ったならば、利用したいと思う人がもっとたくさんいるのではないかなと思う。笛吹の里のみの対応では解決が難しい問題と思う。	「笛吹の里」が「活用できる地域資源の一つ」として地域から認知していただけるよう、地域との関わりを更に深める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取り組み	利用者が考える「その人らしい暮らし」「～したい」に対し、家族はどう思うのか、また、それに協力してくれる地域の方や社会資源があるかを再確認し、利用者本人を含めた関係者全員で支援計画を検討し、実行、評価していく中で、利用者の意向に沿った個別の対応ができるよう取り組んでいく。	地域の方の支えがあって一人暮らしを維持している方がいる一方で、病状悪化や施設利用頻度の増加に伴い、協力関係が継続できずに途切れてしまった利用者がいたり、せっかく新年会への誘いがあったても「足が悪くから」「施設に通っているから」と地域との関わりを諦めてしまう利用者がいたりした。家族の協力や地域資源を活かした取り組みが十分にできなかった。	◆地域の方の中には契約者以外の方にも積極的に関わっているとの意見もありました。◆地域交流が積極的に取り組まれている。◆いろいろな生活にあった援助がなされており、独居の利用者、サービス利用が家族や地域の生活に多く提供されていてうれしいです。◆地域の行事やイベントに積極的に参加し、定期的に利用者の気晴らしを図っている。◆地域の人の対応は主に2通りに分かれているように感じる。認知症の兆候があると、すぐに何とかしてほしい等の『支援』とは言えない反応をする人と、できるだけ支えてあげたいというような人の2通りである。認知症は年をとればとるほど誰でもがなりえる病気だということがまだ理解されていないことが原因の一つとも思う。最後まで自分の家で暮らしたいと思う人が圧倒的に多いのは当然であり、その人の地域との関わりは大切なことである。しかし施設の利用が多くなればなる程、地域との関係は薄くなるざるを得ない。本人がどう思っているかが一番大切なことであり、関わりを持ちたい人とそうでない人もいるのでそれなりの対応が適切であると思う。	家族をはじめ、地域からの協力を得ながら、利用者の意向に沿った「暮らし」の実現を目指す。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	平成29年度運営推進会議では、事業報告のみでなく、地域課題について話し合ったり、事例検討や研修を開催したりする等、多職種が集まる機会を十分に活かせるように会議運営に努めます。	今年度運営推進会議では、委員の方から、民生委員の活動内容を教えてもらったり、関心のある事や地域課題について、意見交換をおこなったりする等、施設の報告事項以外にも議題としてあげ、会議をおこなうことができた。	◆会議に参加してこれからも取り組んでいきたいと思えます。◆運営推進会議は年々議論が活発になっていると思う。いつまでも健康であればよいが年をとるに従い肉体や頭脳が衰え、要介護状態になるのは、避けられないことである(生きていれば)。そういった時に何を考え、何に希望を持ち、何か楽しみがあり、特に周囲の人や支えてくれる人との心の交流を持って前向きに生きていたいと普通は考えるのではないかなと思う。老化が進んで着ると自分の意思表示がはっきりしなくなるのは致し方ないと思う。いろいろな問題が付きまとう状況であり、運営推進会議でこういったことの本質についての議論がなされるよう、また、その為にはどういった議題を選ぶか、我々も良く考えて会議に出席したいと思う。	地域課題への取り組みや地域の福祉・介護力の向上に寄与できるような会議運営を目指す。
F. 事業所の防災・災害対策	自衛消防訓練を年3回計画し、災害対策についての内部研修を開催する予定です。災害対策マニュアルについて再度確認し、必要であれば見直しを防災委員会で検討します。	今年度は藪野町内と笛吹の里が合同で地震を想定した災害訓練を実施し、一時避難所として施設がどのように取り組むべきか考える機会となった。大雨や台風等で川が増水する等、想定以上の事も起きることがわかった。3月の自衛消防訓練では消防署からの立ち会いを受け、アドバイスをいただいた。	◆水害を想定して河川敷の木の伐採が予定されていることをこの会議で知りました。有難い事です。◆近隣住民として、一時避難場所として施設利用ができるのは何より安心です。よろしく願いいたします。◆ライフラインが止まっても、一週間くらい対応ができるようにしてほしい。◆藪野町内の災害を想定した訓練を笛吹の里を一時避難所として提供し、合同で実施したことは非常に良いことである。最終避難場所の小学校は遠いので最も頼りになるのは笛吹の里だと思ふ。前にも書いたと思うが(介護施設では安全の点から無理かもしれないが)前もって設定したことを何回か実施したら、次のステップとして、抜き打ち(事前連絡なし)的に訓練をおこなってみることが、実力を見る上では必要だと思う。	自衛消防訓練を年3回実施する。防災委員会が中心となって、非常時でも行動できるように、日頃から職員の防災意識を高める。